

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	岩手県岩手郡岩手町大字子抱 8-110-7 (電 話) 0195 (61) 2022		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内		
訪問調査日	平成19年11月26日	評価確定日	1月23日

【情報提供票より】(19年 11月 5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	2月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤	- 人, 常勤換算 7 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,900 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 950 円		

(4)利用者の概要(11月 5日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3	名	要介護2	3	名
要介護3	2	名	要介護4	1	名
要介護5	-	名	要支援2	-	名
年齢	平均 87.2 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	佐渡医院 、 三宅歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北上川河畔に広がる田園地帯に農家が点在する静かな環境の所に、大きな民家を想わせる木造の建物が門柱と木柵をめぐらした広い敷地の中に「グループホームきらら」がある。南向きに玄関と広いウッドデッキからは遠くに“姫神山”が望まれ、自然に心が開かれるような環境にある。利用者は95歳の方を最高齢に全員80歳以上の方々だが、年齢を感じさせない自立行動の方が多く職員と共に生活していることを感じさせる雰囲気がある。地域は各家々との距離は農業地帯なので少し遠いが、地域密着型サービスの目指す地域住民との係りは事業所からの積極的な働きかけと、地域からの理解と支援が相まってその実践と成果は期待されるものが多いと思われる。特に、事業所が掲げる独自の理念の中の“管理しない、壁を作らない”の実践は管理者と全職員が意識的に取組んでいることで、利用者の自立した生活に向けての支援として有効なものと期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者と家族の個人情報に係る記録類の保管の状況は、カーテンで仕切られた書庫に保管されて職員以外人目にふれないようになっている。運営方針、入退居、職員採用などについて管理者が法人運営者に対し意見や提言が出来る場があり、職員の考えが伝わる仕組みになっている。地域の方が参加出来る行事の開催の課題は、時期(農繁期以外)、内容と共に検討中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価、外部評価の意義と内容などについて管理者より説明を受けて職員全員で 各項目へのコメントを管理者に伝え、特に改善点などへの認識を深め実践に生かされるよう自己評価に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	ホームの周辺が、夜間大変暗い状況であることに気付かれた推進会議のメンバーからの発言もあり、課題としていた街灯の設置を行政機関に働きかけて頂くことになり、その成果が期待されることである。事業所が運営推進会議と一体となって課題に取り組む事例として評価される両者の関係に近づいていると感じられる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の来訪が多く、利用者の暮らし振りの報告や家族の状況など情報交換の場が確保されている。家族会の折りのアンケートでも家族の意向を教えて頂き、その中から家族の希望を取り入れた具体的支援を実施している。家族の意見やアンケートの中には遠慮された内容が比較的多いことから、素直な意見や苦情の把握が今後の課題とも考えられる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近隣地域からの利用者もおられることから地域からの理解は十分得られる状況があり、散歩や外出時に声をかけて頂いている。季節の野菜が届くなど、地域からの支援は 期待出来る状況にあるが、商店での買物など普段の生活をどのようにして利用者に提供、支援出来るか工夫が要される所でもある。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者職員がともに暮らす」「管理しない、壁を作らない」「介護度を下げるような関わり」「生活すべて自立する方向へ」「施設外の人々との交流」を事業所理念とし、地域との交流を意識し日々の実践に生かすよう努めている。		事業所の理念は、事業所がめざすサービスのあり方を端的、具体的に示したもので、事業所全体として質の確保に取り組む上での根本的な考え方である。これまでの基本方針にある“家庭的な環境の下で”という表現は制度改正では“家庭的環境と地域住民との交流の下で”に改められ、地域との関連性が重視されることになり地域密着型サービスとしての役割を目指すことになった。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に持たれる部署別(法人内、同種の各事業所)ミーティングで理念の目指す取り組みへの話し合いと理念の意味の確認をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会の一員として回覧を届けて頂き、地域の情報が伝えられている。地区内の小学校での行事に招待して頂いたり、地域での行事(久保地区振興会)に参加して交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価、外部評価の事業所にとっての意義の説明とその理解を得て、全職員が自己評価の項目へのコメントを記入してミーティングでの検討に臨んでいる。	○	評価は全職員で取り組む事が、設備及び運営に関する基準にも明示されているほか、評価は一連の過程を通して職員の意識をあわせ、振り返りや見直し等を行うことが可能と思われる。年に1回の評価を計画的、継続的に取り組みサービスの質の確保に活かしていくことが重要と思われ、そのためにも職員の意見や検討の記録類を残されるなど、次に繋げられる効果を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月で開催し、地区での情報や、グループホームへの助言を頂いている。推進会議のメンバーの方々が、グループホームの周辺には住宅が少なく夜間暗い状況であることに気付かれ、街灯の設置について 運営推進会議から町への働きかけをして頂いている。		運営推進会議は、事業所を外部からの目を通して、ホームでの取り組み内容や改善課題などの情報を得ることや地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。事業所側の姿勢が運営推進会議のメンバーの参加意欲にも反映されるので意識的な取り組みが望まれるし、利用者家族の積極的参加も期待される。運営推進会議に自己評価の内容の説明と、外部評価の結果の公表も欠かせないこととなる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の事業で行なわれるボランティア教室ほか、町で開催する行事には積極的参加するようにしている。市町村担当とのコミュニケーションには意識的な取り組みに努めている。		新しい介護サービスである地域密着型サービスでは、事業所と市町村とは利用者の課題解決のために、事業運営の考え方や実態を共有して行くことが重要なことで、市町村担当者と協議しながら共に解決を図っていく協働関係の継続が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の体調変化の報告や、預り金の経過明細を個々の預り金台帳で管理して、家族の来訪時に報告し確認を得ている。	○	預り金など利用者個人の金品の取扱いについては、金銭管理の要領を定めて、重要事項などへの明記が望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	6ヶ月に1回の家族会の折り、無記名でのアンケートをお願いして、家族の意向が汲み取れる機会を作っている。そのアンケートの要望等により、家族同行のドライブ小旅行なども実施している。		地域密着型サービスでは、家族と職員とが馴染の関係を作りやすい反面家族が率直な意見などを云い難い状況もある。外部の相談窓口や相談者など事業所以外に意見苦情を表わせる機会や場があることを繰り返し説明することも大切なことだと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動はあるが、他の部門より少なくするような配慮を運営者には理解してもらっているし、離職者を出さないような勤務体制や職場環境作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のたびに勤務変更等出来ない時には、(同研修テーマの)別の機会に自主的参加も促している。資格試験などは自分のためだけでなく、施設のレベルアップに繋がるとの思いで後押しをしている。日程調整などは臨機応変に対応している。		濃密な個別対応や柔軟な支援が求められる地域密着型サービスの実践力を身につけていくために、職員が日々の体験を学びにつなげていくための、働きながらの学びの機会が必要である。現場で共に考え助言する人材の確保の工夫も求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の全国、県の協会に加盟し交流と情報源にしたり、新しい取り組みへの勉強の機会にもなっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族だけでのグループホームの見学や本人同行での来訪など出来るだけ見学や面談を重ねて、互いに親しみの関係の上で入所に向けた手順につながるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	危険なことだけは避けて日常的なことは利用者に手伝ってもらっている。お茶入れ、テーブルふき、タオルたたみなど、それぞれ利用者の担当が定着していて、そのほかにも何かすることがないかと職員に問いかけてくる方もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員に対して遠慮がちな利用者の場合その思いを引き出すために、間接的な会話などにも注意をして利用の意向や思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の面談や家族からの聞き取りなどの記録を振り返りながら、現状の生活の観察を大事にして介護計画に活かすようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定された見直し期間前であっても、本人の変化や家族の要望に応じて見直しの計画を立てている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外出、外泊はそれぞれの希望に応じている。外出しての買物や、定期的外出の支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医院での受診が常時期待出来ることになっているので、利用者・職員共安心して生活が出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制に関する指針が出来ているので、重度化や終末期への対応についての検討と勉強会を持っている。		本人や家族の大きな不安の一つが、重度化した場合の対応のあり方が、本人に関わる全ての人達の考え方や意向がずれたまま重度化の時期を迎えることのないよう、早期から話し合いの機会を持ち関係者全体の方針の統一を図っていくことが重要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個人の記録など情報の管理保管について、常に職員同士で確認し合っている。職員の話が聞こえにくい利用者にはほかの方には分らないような方法で伝えるよう工夫をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の行動の流れを重視して強制することなく、本人の意向の確認をしっかりと、本人の希望を尊重し、大事にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、2ヶ月毎に法人内の栄養士のチェックを受けている。季節を感じさせる豊富な地域の食材を活用して、利用者と共に調理と食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を実施している。自立入浴の方が約半数に近く、一部、全介助とも本人の了解のもとに異性介助の場合もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	心肺機能を高める効果も期待して、大きな声で歌っている。十分な面積の畑が確保されているので、利用者が得意とする農作業で季節の野菜を作って収穫の喜びを共有している。		加齢と共に認知症が進む過程で利用者は、自分で楽しみごとや役割の場面を作り出すことが困難になってきているが、体で覚え込んだ記憶は豊富で見ているだけでも楽しい気持ちや活力が出ることが期待出来ると思う。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースがあり職員と一緒に出かけたり、利用者が希望する所に行くような支援やドライブ、温泉などに行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の鍵かけは裏口だけで、玄関チャイムなどで利用者の外出など職員が認知出来る状況にある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	2月、6月に避難訓練を職員3人体制(日常の体制)で実施している。難聴の方には言葉では通じにくいので、大きな文字で短い言葉をボードに書いたものを示して避難時間の短縮に役立てている。		職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、日頃から地域住民や警察署、消防署との連携を図り事業所の災害対策に理解と協力が得られるような取り組みが期待される。また災害に備えた食料、飲料水、トイレの問題、寒さに対応出来る衣類など準備しておくことも見逃せないことだと思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表で残食や水分摂取を記入してその日の利用者の状態のチェックをしている。また生活歴の中から好物や苦手なものなどの情報を掘り起こして、好みのものや 馴染のものが提供出来るよう支援の工夫をしている。		利用者の体調や運動量、食べるタイミング、食器の工夫など暮らし全体を通じて食欲を促すよう、家族と職員間で情報や気づき、アイデアを出し合い、本人の食生活を様々な面から支援して行くことが必要と思われる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの小あがり3ヶ所に分散されてあるが、管理者は利用の状況から見て改良の必要があると考えていて、更に居心地良い共用空間作りを検討している。	○	高齢者は総じて膝、腰に何らかの問題を抱えて居り畳敷き(平面)での立ち座りにはかなり困難が伴うと思われる。対策として大きめで、ゆったりとした数人がけのソファが有効な設備とも考えられる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、かつて使用していた家具や思い出深いものを持ち込んでの居室作りでその人らしさを感じさせられる。		